

手順書:循環器関連

9. 経皮的心肺補助装置の操作及び管理(6)

【特定行為の概要】

医師の指示の下、手順書により、身体所見(挿入部の状態、末梢冷感の有無、尿量等)及び血行動態(収縮期圧、肺動脈楔入圧(PCWP)、心係数(CI)、混合静脈血酸素飽和度(SvO₂)、中心静脈圧(CVP)等)及び検査結果(活性型凝固時間(ACT)等)が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、経皮的心肺補助装置(PCPS)の操作及び管理を行う

【当該手順書に係る特定行為の対象となる患者】

1. PCPS装着中の患者
2. PCPS離脱中の患者



【看護師に診療の補助を行わせる患者の病状の範囲】

- ☐意識状態に大きな変動がない
- ☐PCPSの駆動状況が安定

病状の範囲外

不安定であり、緊急性あり
担当医 PHS、携帯電話に
直接連絡を行う。



病状の範囲内



【診療の補助の内容】

経皮的心肺補助装置(PCPS)の操作及び管理



【特定行為を行うときに確認すべき事項】

- ☐PCPSの流量、遠心ポンプ駆動状況、人工肺内の血栓の有無
- ☐バイタルサインの変化
- ☐送血管挿入箇所出血・腫脹・発赤の有無
- ☐送血管挿入側の下肢虚血の有無
- ☐送脱血管挿入箇所出血・腫脹・発赤の有無
- ☐脱血管挿入側下肢の腫脹の有無

どれか一項目でも異常があれば、担当医に連絡

異常の場合、担当医 PHS、
携帯電話に直接連絡



【医療の安全を確保するために医師との連絡が必要となった場合の連絡体制】

担当医のPHSもしくは携帯電話
必要時は当直医師PHSへ連絡



【特定行為を行った後の医師・歯科医師に対する報告の方法】

1. 担当医PHSに直接連絡(必要時)
2. 診療記録への記載